

MC's Pick Up

旬の話題・気になるニュースを毎月お届け! モデル・カーズ・ピックアップ



スバルサンバーに送る、ファンからのエール

photo:model cars(編集部)

旧日本陸軍の一式戦闘機「隼」など、数々の名機を生んだ中島飛行機をルーツに持つ富士重工は、自動車製造に着手した当初から、その航空機製造で培った高い技術力に裏打ちされた理想主義的なクルマ作りで知られている。

1958年に登場し、戦後日本のモータリゼーションの発展にはかり知れない恩恵をもたらした歴史的名車・スバル360に始まり、独自の水平対抗エンジンや四輪駆動を備えたレガシヤインプレッサまで、多くのファンに支持されて来たスバルの歴代モデル。しかし、そんな乗用車以外にも忘れてはならない車種がある。そう、スバル・サンバーだ。

初代サンバーがデビューしたのはスバル360に遅れる事3年、1961年のこと。360譲りの四輪独立懸架やリア・エンジンなど、他には見られない独自のメカニズムを、現行の最新モデルに至るまで半世紀にわたって連続と踏襲して来た歴代サンバーは、熱烈な信奉者によって支持され続けて来た。

フロントアクスル上にドライバーが座るキャブオーバーの採用はクラス最大級の荷室寸法。実際、軽商用車ではサンバーにしか積めない荷物も少なく無い。ショート・ホイールベースは農道や狭い路地裏での機動性に富み、伝統のリアエンジンは空荷の際にも後輪に十分なトラクションがかかる。それら数々の優れた資質に加え、3代目からはそのバリエーションに同社のお家芸とも言える四輪駆動モデルも追加されている。

長い年月の中で徹底的に磨かれて来たサンバーは、メルセデスのウニモグやランドローバーに勝るとも劣らない「日本を代表する良質なツール」なのだ。

しかし、今後スバルの軽乗用車が全てダイハツ製のOEMモデルとなることが決まった今、スバル伝統



ダイヤベットの新作として今回モデル化されたのはスバルサンバー 軽トラック、スバルサンバー ラーメン屋、スバルサンバー バン屋の3バリエーション。いずれもスケールは1/36で、価格は軽トラが¥1,680(税込)、ベンチ等の小道具が付属する他の2台は各¥1,890(税込)となっている。

株式会社アガツマ
<http://www.agatuma.co.jp>



●スバル360

1958年に登場した富士重工初の市販乗用車、スバル360。現行サンバーはこの360の遺伝子を最も色濃く残したスバルといえる。



●スバル360カスタム



●スバル・サンバー (二代目)



●スバル・ドミンゴ

左上はスバル360をベースに後部に荷室を設けた貨客兼用車、スバル360カスタム。1963年にデビューしている。右上は1966年に登場した二代目サンバー。そして左は四代目サンバーをベースに1983年に登場した派生モデル、スバル・ドミンゴ。1リッター・エンジンを搭載した3列シート・7人乗りモデル。

のDNAを色濃く今に伝える現行サンバーを新車で買えるのは、もしかしたら今が最後のチャンスかも知れないのだ。

この度ダイヤベットの新作に加わったのが、そんな現行スバル・サンバー。御存知の通りダイヤベットは現存するミニカー・ブランドとしては、我が国最古の歴史を誇る老舗中の老舗。昨今のミニカーがオトナのコレクターを見据えて年々精密に進化していく中で、あえて幼児向けのジャンルにとどまり続けて来たのはひとつの見識。いずれにせよこのサンバーはスバル・ファンならずとも、注目の製品といえよう。



●スバル・サンバー (現行)

こちらが今回ダイヤベットでモデル化された現行のスバル・サンバー。

